慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	序
Sub Title	
Author	堀江, 湛(Horie, Fukashi)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1988
Jtitle	法學研究 : 法律・ 政治・ 社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.61, No.5 (1988. 5) ,p.3- 4
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	法学部政治学科開設九十周年記念論文集
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19880528--003

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

序

法学部政治学科は昭和六三（一九八八）年五月一日をもって開設九〇年を迎える。法学部はこれを記念して政治学科所属の専任教員によるこの論文集を刊行することとした。

今日、政治学科の専任教員の専攻領域と分析技法は驚くほど多様である。しかし、それにも拘わらず、この論文集からも明らかなように、そこに自ずと醸し出される問題接近の姿勢と学風にみられる共通性の存在は否定できない。九〇年の伝統は随所に生きている。

現在の政治学科で、中国研究をはじめとし、地域研究と国際政治の研究が盛んなことは、政治学科の建国（ファウンディング・ファーザ）の父祖（ファーズ）ともいうべき林毅陸の専攻が外交史、比較憲法、田中萃一郎が近世東洋史、板倉卓造が国際法と政治学、占部百太郎が英国憲政史であったことと無縁ではあるまい。さらに、単に研究領域のみにとどまらず、林毅陸の自からも政友会の代議士として第一次護憲運動に参加した経歴、板倉卓造の多年「時事新報」の論説に健筆を振った経歴からほとばしりでる、藩閥官僚政治の打破とわが国の議会政治、政党政治の発展にかけた情熱と改革の精神は、板倉卓造の最も年少の弟子であった中村菊男を通じて、今日でも政治学科の専任教員の中に受け継がれている。

政治学科の基礎を築いた諸教授たちの文章は、いずれも驚くほど平易で、しかも明晰であった。知的権威主義と無縁の、徹底して観念論を排した経験主義的学風は今日でも政治学科の多くの専任教員の学風となっている。反面、政治学科の歴史において第二世代の教授を代表する潮田江次によって、当時の日本の政治学界に対して提起された科学としての政治学の方法論に対する鮮烈な自覚は、政治学科専任教員に絶えざる方法への関心を喚起しつづけている。

同じ第二世代の教授のひとり米山桂三の政治研究に対する社会心理学的、社会学的接近の導入に始って、世論研究、

文化人類学、産業、医療社会学へとつぎつぎに政治学の周辺領域を開拓していった学際研究への志向は、現在の政治学科専任教員の、特に政治学と社会学の交錯する領域をめぐるマス・コミュニケーション研究をはじめとする研究の多様性のひとつの契機となっている。

大学はヨーロッパで発展した制度である。従って欧米の大学では記念行事は欧米の文化的習慣に従って二五年を区切りとして行われることが多い。慶應義塾大学も昭和五八（一九八三）年に創立一二五年の記念行事を行ったばかりである。しかし、日本の大学が日本の習慣に従って、一〇年の区切り目に記念行事を行って悪いということはないであろう。法学部は既に法律学科開設九〇年に際し記念論文集を発行した。今回の政治学科開設九〇年の論文集もこのひそみに倣うものである。

しかし、われわれがこの論文集を編んだのは、いたずらな過去に対する懐旧の情、古きが故に尊しとする伝統追随主義に発するものではない。今日、慶應義塾大学の法学部政治学科は世界で政治学とその開連領域の若い研究者を最も多く養成している大学のひとつである。この論文集は政治学科専任教員の現時点における研究成果をしめすことによって、本書に寄稿している年少の同僚を含めて、慶應義塾政治学科を巣立った多くの新進が、政治学科一〇〇年に向けて、名実ともに世界の政治学界を支える人材として成長していくための、ひとつの刺戟あるいは跳躍台となることを願ってのことに外ならない。

一〇年後、政治学科が一〇〇年を迎える頃、慶應義塾大学政治学科が文字通り世界の政治学研究の中核的センターとなり、その時刊行されるであろう政治学科開設一〇〇年の記念論文集において、慶應政治学の絢爛たる開花をみることをひたすら願うものである。

昭和六三年四月

法学部長　堀江湛